

楽しい学びで

Vol.11



大滝 文平

クラスをつくる

Vol.11は?

1時間の授業を深掘りシリーズ①

「Vol.11 導入編」「Vol.12 展開編」「Vol.13 終末編」と、授業を深掘り!

インパクトのある
事実提示をめざせ!

4コママンガ

作・絵／大滝文平

34
年生
目
教
担
論
任

これは
インパクトのある
導入になるぞ!

①



なんてったって「導入」!

～授業の入りで勝負は決まる!?!～

「社会科の授業ってどうやって進めればよいか、よくわかりません!」このような声をよく聞きます。実際に「社会科の授業が苦手」と感じている先生の割合は他の教科に比べても多いです。さらに困ったことに、経験を積んだ先生も苦手意識が高い傾向があります。

「取材をしないとイケないのかな?」

「教科書をどうやって使えばいいの?」

「板書は?ノート指導は?」と、

様々な「?」が聞こえてきます。



次の時間は
社会科かあ

そこで! Vol.11～13では、「1時間の授業を深掘りシリーズ」と題して、授業展開を丁寧に引き上げていきたいと思います。今回はその第1弾として、授業の入り口である「導入」に焦点をあてます。

もちろん単元(教材)によって、時数(単元の○時間目)によって、その導入は違ってくることでしょう。子どもの実態によっても異なるはずですが、共通して言えるのは、導入が授業の勝負を決める!ということです。だからこそ、丁寧に考えていきたいのです。マンガの1コマ目では、授業準備を一生懸命やっている様子が伝わってきます。皆さんなら、この事実をどのように子どもに提示しますか?では、次ページへGO! レッツ「導入」!

(横浜市立森の台小学校 大滝 文平)

日文のWebサイト

日文



1時間の授業を深掘り!
「導入」のエッセンスが
いっぱい!



心が動く、その先へ。

日本文教出版



単元の導入時の「導入」

「？」が生まれる事象との出会い!

～教師は多く語らない。子どものつぶやきを大切に～

「導入」成功の鍵! こんな姿であってほしい
○単元の導入時(1～2時)の「導入」
「えっ、何で?」「おかしいよ!」
「そんなに?」「自分は○○派!」

大切な単元の始まりです。子どもが社会的な事象と出会います。教科書の資料であれ、実物を提示するのであれ、あるいはVTRであれ、「どのように出会うか」が肝心です。

「これを見たら○○さんはどんな反応をするかな?」「きっと…」こんな感じで楽しみながら事象との出会いを考えてみませんか。その際に上記のような声が聞こえてくると、次第に子どもの「？」が生まれることでしょう。そうなのです。事象との出会いを通して、子どもの「？」(学習問題の入り口)を見出せ!

(例1)「そんなに大きな仏像ありえない!」

「何で、そんな仏像つくったの?」

(例2)「そんなに水ってたくさん使ってるの!」

「お水ってなくならないの? どこから来るの?」

単元の中盤から終末の「導入」

今日の学習問題を確認!

～子どもの声から始まってほしい～

「今日は○○のことについて考えるんだよね」
「調べてきたことあるから伝えてもいい?」
「先生、○○さんからの発言ですよね」
「何で前回○○さんは～って言ったの?」

単元の序盤でできあがった、みんなの「？」が学習を通して、明確な問い(学習問題)になってきます。上記の姿で共通しているのは、前時から継続している学びの姿です。授業の終末についてはVol.13でお伝えしますが、次の時間に続く問いがあるからこそ、本時の導入につながるのです。前時から継続した子どもの発言が続き、本時の中心となる問い(学習問題)が改めて確認される導入になってほしいものです。



(例1)「やっぱり大仏は材料がもったいないよ」

「なぜ聖武天皇は大仏を建立したのだろう」

(例2)「調べると浄水場が水をきれいにしている」

「どのように水をきれいにしているの?」

次ページから導入の具体的な実践です!

(横浜市立森の台小学校 大滝 文平)

Part 1

ワクワクする導入をめざして!

3年 「市のようすと
くらしのうつりかわり」

横浜市立釜利谷南小学校 山本 雅也

単元の導入

「○○について、調べてみたい」とワクワクした気持ちになるかを考えて、単元の導入に取り組みました。



〈1時間の流れ〉

- ①校内に掲示している「地域や学校の歴史の年表や写真」(資料①)を見て、わかったことや気になったことを話し合う。
- ②「横浜市の今と昔のイラストと市域の地図」(資料②)を見て、気づいたことを話し合う。

③単元全体の学習問題を設定する。

〈資料①を見てわかったこと〉

- ・港南区は、1969年にできたんだね。
- ・港南台駅ができたころにたくさん団地がつくられたんだね。
- ・使っている道具が今と全然違う。

〈資料①を見て気になったこと〉

- ・1969年より前は何区だったのかな?
- ・区っていつできたのかな?
- ・横浜市はいつできたのかな?
- ・どうして港南台にはたくさんの団地があるのかな?
- ・どんな生活をしていたのかな?

町のようすから市へと考えが広がってきたので、資料②を提示して、気づいたことを出し合いました。

- ・昔は、緑が多かったんだね。
- ・横浜市は、すごく小さかったんだね。
- ・私たちが住んでいるところは、昔は横浜市ではなかったんだね。

このような気づきを通して学習問題を設定しました。

〈学習問題〉

横浜市や人々のくらしはどのようにかわってきたのだろう。

〈学習計画〉

- ・道具がどのようにかわってきたのかについて調べる(体験したい)。
- ・横浜市はどうして大きくなったのかな?

学習計画ができると、「道具について調べたい」と話す児童が多く、2時間目からは道具について取り上げることにしました。

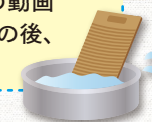
【1時間の学習の導入】

〈2時間目の導入…実物を見る〉

学校にある「洗濯板」を提示し、使い方を予想しました。その後、洗濯機や調べてみたい道具のうつりかわりを調べました。

〈3・4時間目の導入…動画を見る〉

洗濯板を使った洗濯の仕方についての動画を見て、洗濯の仕方を確認しました。その後、洗濯体験をしました。



道具のうつりかわりについてまとめた後…

港南台のまちの写真を提示しました。子どもたちは、「こんなに広い土地があるのに、どうして家を建てずに団地をつくったのだろう」と団地に問題意識をもつようになり、家と団地の違いについて考えました。

〈8時間目の導入…自分の意見を話す〉

話し合いから始まり、団地には子育て世代が多く住んでいたことや団地に住むことが人気だったことをとらえました。

〈9時間目の導入…横浜市の地図を見る〉

掲示している大きな地図から団地を見つけてシールを貼る活動から、横浜市にたくさんの団地があることを確かめました。

1時間の導入は、その前の時間の最後にどのように次の時間の見通しをもたせるかで大きく変わるといいます。子どもたちの思考の流れを大切に、どのように授業をスタートするとよいかを考えて、導入を工夫してみてください。

Part 2

導入が単元を通して子ども
どうしの考えをつなげる!

6年 「国づくりへの歩み」

横浜市立あざみ野第二小学校 引田 雄士

1. 単元の導入!

子どもとの会話からスタート!

歴史の単元が始まる前に子どもたちは歴史のどんなことを知っているかリサーチします!

引 田「次の時間から歴史の学習が始まります。何が楽しみな?」

Aさん「武士の時代が好きだな。刀や鎧に興味があるよ」

Bさん「平安時代がいいな!着物をたくさん着てみたい」

Cさん「歴史は全然知らないから、苦手だな」

子どもによって様々な反応が返ってきます。

Dさん「昔の物の実物を見たいな!」

という言葉キャッチ!Dさんの言葉から単元に入ろうと決めました!

2. 第1時の導入!!

実物を見て子どものつづやきから学習を進めよう!

第1時の学習は、実際に学校に置いてある縄文土器と弥生土器のレプリカを見せます。



そして、実物は単元が終わるまで教室に置いておきます。もしくは、写真を撮って掲示しておきます。導入で見せて終わりではなく、何度も見ることで、単元の中で子どもの言葉に出てきます。

引 田「Dさんが前回の学習で実物を見てみたいと言っていたので、持ってきました」

Dさんの言葉から始めることで、子どもとともに学習をつくる意識をもたせます。

Aさん「おー!どっちが縄文土器でどっちが弥生土器だろう?」

Bさん「左が縄文土器で右が弥生土器だよ!」

Cさん「資料集で見ている物より大きい!」

Dさん「資料集に載っているの?どこどこ?」

実際に実物を見ることで子どもどうしがつながっていきます。ここでは、教師が説明するよりも、実物をじっくり

見せて子どものつづやきを大切にしています。



Eさん「もっと近くで見てもいいですか?」

実物をじっくりと見る姿勢を子どもにもってほしいので、このつづやきを大切にしています。近くで見ると縄の模様や、縄文土器と弥生土器の厚さの違いを見ることができます。

Fさん「縄文土器と弥生土器はどうやって使っていたんだろう?」

Gさん「食べ物とか入れていたんじゃないかな?」

Hさん「資料集に使っているところが載っているよ!ほかの人もしろいろなことをやっているね」

Iさん「こんな生活をしていたんだ!2枚の絵は似てるけど違う部分もあるな」

導入で使った実物によって、子どもたちからたくさんのつづやきが生まれてきます。私は、ここでは「なるほど!」や「Fさんの発言を聞いて、Gさんは伝えてくれたんだね」など、子どもどうしのつづやきがつながるように声をかけていきます。

もう一つ、私がここで意識しているのは、子どものつづやいた言葉です。「資料集」「どうやって使っていたのだろう?」「食べ物」「生活」など次の学習につながる言葉は全体に価値づけをして伝えています。

「愛のチョークで引田が斬る!」

(横浜市立あざみ野第二小学校 引田 雄士)

今回は導入の大切さについて皆の実践を通して伝えていただいた!これから導入を考えていくときにどんどん生かせそうじゃ!皆の実践は本当に素晴らしい...しかし、今回は拙者、引田の実践について皆に伝えていくぞい!!(失敗だらけなのでお許しください!)

シャキーン!
愛のチョーク!

導入で失敗したことを伝えるぞい!

教師になって2年目...校内授業研究会で初めて社会科の授業をしたときのことじゃ。5年生の「米づくりのさかんな地域」の単元で先輩から、「導入で子どもが実際にお米を食べることでのいろいろな考えが生まれてくるのではないか」というアドバイスをいただいた。わしは、単元の流れのことなど考えず、「子どもがお米を食べたら喜ぶ!」と思い、導入で子どもたちにお米を提供したのじゃ。炊けたお米を子どもたちの前に出したときに、「いいにおい!」「お米が輝いている!」などの声が広がり、子どもたちの目は輝いていた!食べたときには、「こんなお米を食べたの初めて!」「びっくりするくらいおいしい!」など、子どもたちはたくさんつぶやいていた。わしは、このつぶやきに対して、何も取り上げることができず、そのまま流してしまったのじゃ。ご飯を食べ終わったあと、子どもたちのつぶやきとは全く関係のない発言をして、発言が全く出なくなってしまったのじゃ...なんとも情けないのぉ...



シャキーン!
愛のチョーク!

導入を考えるときに意識していることを伝えるぞい!

導入を考えるときに意識しているのは、単元の様々な場面の導入で使った実物や資料、写真などが子どもの発言を通して出てくるようにすることじゃ。「一番最初の資料でも書いてあったように...」「最初に見た写真とは違い...」「後ろに置いてある実物と比べてみると...」など、何度も導入で使ったものが出ることで、子どもたちの学びが積み重なっていくからじゃ!導入で使ったものを一回見ただけじゃもったいない!何度も何度もみること、最初とは違ったものに見えてくる。そこがおもしろいところじゃ!



今回はわしの失敗談&プチ助言をたくさん伝えさせていただいた。失敗も助言もまだまだ山ほどあるぞい!(誇れることでもないが...)今回はばっちり斬ることができた!!いや、助言をしているから斬っていない!無念!それでは御免!

みんなで楽しく学ぼう!先生たちの勉強の場(今年で10年目)紹介!

社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場(きたまなば)」



遅刻・早退
OK! 事前
申し込みも
不要!

北学場 <連絡先> 大滝 文平
kitamanaba@gmail.com

横浜市北部(青葉区、都筑区、緑区、港北区)の社会科有志が中心となって発足した、緩やかな勉強の場です。

発足して10年目になりますが、今では横浜市内・市外の初任者をはじめ、経験の浅い先生、中堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味があれば、連絡(メール)をいただければ案内チラシを送らせていただきます。

社会科の学習をよりよくしたいと思っているのは、僕も僕以外の皆さんもきっともっている気持ちだと思います。今号のテーマ、「導入」について、僕と一緒に考えていきましょう。

横浜市立釜利谷南小学校 山本 雅也



今回のテーマ 「導入」について考えてみよう。

導入といっても、①単元の導入 ②1時間の授業の導入 では、役割が大きく違ってきます。ポイントを表にまとめてみました。

	単元の導入	1時間の授業の導入
位置づけ	新しい単元のスタートの1時間。	毎時間の授業の最初の5～10分。
目的	学習の見通しをもち、「単元全体の学習問題」をつくる。 学習計画を立てる。	その時間の学習問題や、めあてを明確にする。 本時の活動への意欲を高める。
児童の姿	「これからどんなことを学ぶのかな」「おもしろそうだな」というワクワク感をもち、単元の全体像を把握する。	「今日はこの問題を解決するんだ」「前の時間はこうだったから、今日は、〇〇」といった学習の焦点化と解決の見通しをもつ。
主な学習活動	単元全体の学習問題をつくる。 学習計画を立てる。 予想を話し合う。	既習事項を確認する。 本時の学習問題を確認する。 資料を見たり、考えたことを話し合ったりする。
資料など	単元全体に関わる写真やデータ。 児童の生活経験。	その時間の疑問を引き出す具体的な資料や問いかけ。 前時のノートやふり返り。

単元全体の導入は、「計画づくり」がメインになります。全体像を捉え、学習計画を立てることでゴールまでのある程度のルートを子どもたちと共有しましょう。単元の導入を通して、子どもたちが、この単元で扱う内容に興味や見通しをもてるように工夫しましょう。

一方、1時間の授業の導入は、その日の「出発点」になります。単元の序盤は、今日の学習問題を確

認したり、場合によっては資料を示したりすることもあると思います。学習が進んでいくと、子どもたちから、「前の時間はこうだったから、今日は、〇〇だね」というように、子どもたちの言葉で導入の時間が進むこともあると思います。また、授業によっては、授業の最初から話し合う場面からスタートすることもあると思います。

授業によって導入の形は様々あります。単元全体の流れを意識して、今日の授業は、どのようにスタートすれば、子どもたちが主体的に取り組めるかを考えながら、導入の仕方を工夫していきましょう。



横浜市立日枝小学校 石川 和之

今回の叫び 自らの考えを問い返し、捉え直すようになる導入に!

次期学習指導要領 小学校社会科目標の「思考力、判断力、表現力等」に、「自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う」という文言が新たに追加される見通しです。せっかくなので、この力にチャレンジしたい!!

さて、その達成に向けた導入の工夫は??

「単元（おおよそ4～12時間前後）」の中のそれぞれ45分授業の導入の決め手は、「問い」です。単元の1、2時間目に設定した「学習問題」に対するいくつかの予想を検証するための「問い」、もしくは単元の後半で改めて「わかってきたこと」と「わからないこと」が明確になる中で新しく見えてきた「社会的事象の本質に迫る問い」。これさえ子どもたち自身のものになっていれば、45分授業の導入の15分間、教師は「子どもの発言に耳を傾けること」のみに徹することができることでしょう。



叫び1

知的好奇心をくすぐる工夫を！
調べたくてウズウズしちゃう衝動を！

「『問い』が子ども自身のものになるなんて簡単に言いますが、それが難しいんですよ!」そんな声が聞こえてきそうです（苦

笑)。そのために教材研究における力の入れどころはこれ一つ!「子どもの知的好奇心をくすぐる工夫」。子どもが目の前の社会的事象に「え?」「すご!」「なんで?」となる場面をどのように作れるか。その場面を単元のどこに位置づけるか。その工夫で、調べたくてウズウズしちゃう衝動に、子どもを駆り立てるのです。

知的好奇心をくすぐるのにうってつけなのは、地域教材。気になって仕方がなくなると、放課後に何度も確かめに行くようになります。



叫び2

モヤモヤを楽しめ!
子どもも私たちも!

「単元の学習問題」の解決に向けて、解決しやすそうな問いから1時間1時間子どもたちどうして互いに協力しながら調べていきますが、次第に「わかってきたこと」が明確になればなるほど、「やっぱりわからないこと」が見えてきます。6年の開国の単元では、「どうして井伊直弼はたくさん反対している人がいるのに、条約を結ぶ決断をしたのだろう」というように問いが焦点化されていきました。

この「～なのに、」が重要です。調べる中で「反対していた人がたくさんいたこと」を見つけた子どもたちは、「こんなにもたくさんの反対を押し切ってまで、普通は条約を結ばないのに…」とモヤモヤしっぱなしです。「アメリカの技術力の高さにはかなわないと思ったのでは?」など、根拠をもとにした友達の考えを聞いても、やっぱりモヤモヤ。これを子どもも教師も楽しんでいきたいですね!





YUKIKOの部屋

check
point!



1時間の授業の導入

単元の導入が、単元の流れが決まる大切なものであるように、1時間の授業の導入は授業の流れが変わる大切なものです。子どもたちがその時間、意欲的に学習できるかは導入にかかっていると思います。

教科や前時までの進度によっても変わりますが、1時間の授業の導入では、その時間の課題や問題を確認し、1時間の見通しをもって始めることが多いのではないのでしょうか。子どもたちが「やってみたい!」と思えるような始め方をしたいと日頃から思っています。

3・4年生の社会科では、地図記号や都道府県などのクイズを子どもたちと作って、それを毎時間の導入で子どもたちが問題を出してから授業を始めています。短い時間で覚えるのではなく、年間を通して少しずつ楽しみながら学んでいけるといいな、わくわくしながら1時間が始まるといいな、という思いで取り入れています。子どもたちは、「もっとやりたい!」「次の社会科はいつ?」と楽しみにしてくれています。

また、実物を出したり写真や資料を見せたりして始めることもあります。あまり興味のなかった子どもたちも「何かおもしろそう!」「調べたい!」と目を輝かせてくれます。

そのような導入をいつもしていきたいと思うのですが、毎回取り入れるのはなかなか難しいと思います。単元の中で、「ここぞ!」というところを作って、学ぶことって楽しいなと子どもたちが思えるような学習をこれからもめざしていきたいです。

(横浜市立本牧小学校 武藤 由希子)



「楽しい学び de クラスをつくる」では、
みなさんからの質問をお待ちしています!
(連絡先: 北学場) kitamanaba@gmail.com



※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる (Vol.11)

日文教授用資料 [小学校社会]
令和8年(2026年)8月5日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD3111110090

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690